

【奨励賞】

一人の「人間」として

甲賀市立水口中学校の生徒の作品

僕は幼い頃、障害者だった。どうやら心のコントロールができない障害と、上手くしゃべれない病をもっていた。しかし僕はその分物覚えが良かった。そのため、母に教えてもらった数字とローマ字、そして2歳から一人でやり始めた漢字を、小学校へ初めて入学する時よりも前に知っていた。読み書きもできた。そのような少し不思議な性質をもつ僕だが、入学前は少し悲しいことが起きた。母が前準備として小学校に訪問して、関係者と懇談をした時、僕が小学校に行くことを拒絶されたのだ。理由は、「障害者だから。」「言葉をしゃべれないから。」それだけだった。まだ小さい頃は何が起きているか分からなかったが、成長してから母から聞いた後はショックだった。なぜ僕が「障害者」として入学を拒否されなければいけなかったのか。しかし嬉しいことに、母の抗議により、入学を認められた。一・二年は特別な教室で授業を受けていたが、三年になると普通教室に行けるようになった。そして親切な先生たちに恵まれ、テストでも百点を六割ほどとれるようになった。そして幸せに中学校に行けた。母と僕に親切にしてくれた先生たちに、深々と感謝したい。そして彼らの祝福を祈る。

その経験からか、校内の障害者の子と交友関係を深めている。今でも彼らとうまくやっている。そして自然に、一人の「人間」として交友を深めている。僕はずっと先でも彼らと「ハロー。」「ハロー。」「元気?」「うんゲンキ、元気。」

「さよなら。」「さよなら。」と何気ない会話をするような素朴な一時ひとときの関係を築けたらなと思う。もちろんたくさん友達はできた。だから今では「いっちゃん、これ手伝ってくれない。」「ここ分からないんだけど、教えてくれない。」と頼まれる存在となった。

扨さて、皆さんは障害者をどう思いますか?そして「障害者」という言葉を聞いてどう思いますか?今でも障害者への差別が起こっています。例えば二・三年前ぐらい、あるニュースを見た。「一般男性が、視覚障害者に罵声を吐き、その人の白杖の床の接触部分を蹴飛ばした。」という記事で、内容がショッキングだった。罵声を吐いた男は視覚障害者にこう言った。「目も見えないようならば、もう二度と外の道に渡るな。邪魔なだけだ。」僕は怒りが止まらなかった。何も罪もなく、なりたくて盲目になったわけではない善人が、なぜこんな目に遭わないといけなかったのか。なぜ人は障害者を軽率で蔑ろにしているような冷たい目線で見ているのか、僕は自分にそう問いかけた。

あの人はその後はどうなったのだろうか、まだ大きな傷が残っているのか、

怖くて怯^{おび}えているのだろうか、そう考えたらとても辛^{つら}く感じた。障害は視覚の一つだけじゃない。発達障害、精神障害、聴覚・・・数えきれないほどたくさんある。彼らはそれぞれの光があるのに、人はなぜか、彼らを影へと、区別してしまう。そのせいで、たくさんの障害者が苦しみもがいて、今も生きている。

そう思うと、自分の心も体も蝕^{むしば}まれていくのだ。

皆さんも今を見直しませんか。そして、もう二度とあんな悲惨な事件を起こさないために、どうすれば良いか、一緒に考えてみませんか。そして障害者を軽率に見ないで下さい。愛が豊かな博愛主義者の彼らの現実を見捨てないであげて下さい。そして、世界中の人たちをみんな同じ地球^{ほし}で生きた「人間」として平等に、接して下さい。その約束だけは絶対に、忘れないで下さい。